

持続可能なまちと交通をめざした人材育成の実践 - NPO法人再生塾の試み - *

Implement Human Resource Development for Sustainable Community and Transport Planning: A Practice of "SAISEI-JUKU"*

大藤武彦**・土井勉***・正司健一****・中川大*****・村尾俊道*****・本田豊*****・東 徹*****
By T.DAITO**・T.DOI***・K.SHOJI****・D.NAKAGAWA***** T.MURAO*****・Y.HONDA*****・T.HIGASHI*****

1. はじめに

世界の多くの都市では、都市交通政策の基本的な視点を、既に人と公共交通を中心としたものに転換し始めている。これまでの渋滞対策などの自動車交通からの視点だけではなく、都市のみ略や活力を高めるための交通政策が求められているのである。しかしながら、交通計画に携わる実務者の多くは、従来からの需要追従型の交通計画の範囲にとどまっている場合が多いと思われる。

持続可能なまちと交通をめざすために総合的な交通政策を推進するためには、交通と地域の関係、まちづくり、住民や企業市民の主体的な参加、公共交通の経営、情報提供など多岐にわたる分野に明るい“人材”が必要であり、なかでもコーディネートを行う“人材”が非常に重要である。特に、地域交通の活性化、再生は、まちづくりと一体で取り組むべきものであり、地域と行政などが連携して、主体的な取り組みが求められることから、行政担当者をはじめとした実務者の人材育成は急務である。しかしながら、ここで言う総合交通政策を推進するための技術やノウハウを獲得する機会はずしも十分とは

いえないのが現状であり、新しい視点での都市交通政策を体系的に習得する場が、官民いずれにおいても十分に提供されてきていないのである。

特定非営利活動法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾（略称「NPO法人再生塾」）は、このような総合交通政策を進めていくために最も重要な課題である“人材”に着目して、有用な理論的・実践的情報を共有し、意見交換を通して目的観と夢を具現化していきたいという趣旨で、故北村隆一京都大学大学院教授が提唱されて活動を開始した¹⁾。

本稿は、NPO法人再生塾がこれまでに実施してきた人材育成の取り組みを概観して、その成果と問題点などを検証・評価し、今後の取り組みのあり方について考察して、より望ましい人材育成のあり方に寄与することを目的とする。

2. 再生塾の取り組み概要

(1) なぜ“再生塾”か？

「再生塾」の取り組みを始めようと考えた動機は、なぜわが国では総合的な交通政策がなかなか進まないのか？という疑問を、筆者らが一様に抱いたことにある。恒常的な交通渋滞、公共交通サービスの衰退、中心市街地の衰退など、解決していくべき課題が山積しており、関係者がそれぞれに努力しているにもかかわらず、である。

多くの様々な原因が指摘されるし、それらの課題に対していくつかの目指すべき方向性が提案される。

たとえば、「新たなライフスタイルを支援する公共交通サービス提供に向けた自助努力をしよう」、「やっぱり都心の商店街を何とかしよう」、「徒歩指向のまちづくりをしていこう」、「カー・シェアリングなど自動車保有・利用の抑制に向けた諸政策を推進しよう」など、施策の方向性が考えられ、様々な取組みも行われている。こうした活動を一層効果的に推進するためには、時代・社会・人を見る目と技術が必要とされる。

こうした視点から、自動車や公共交通を別々に扱うのではなく、交通の問題を総合的に進めていく政策目

*キーワード：総合交通政策、都市計画、公共交通計画、プロジェクト・マネジメント、人材育成

**正員、株式会社交通システム研究所

(大阪市淀川区西中島7-1-20、
TEL06-6101-7001、FAX06-6101-7002)

***フェロー、工博、神戸国際大学都市環境・観光学科

(神戸市東灘区向洋町中9-1-6、
TEL078-845-3561、FAX078-845-3200)

****正員、商博、神戸大学大学院経営学研究科

(神戸市灘区六甲台町2-1、
TEL078-803-6929、FAX078-803-6977)

*****正員、工博、京都大学大学院工学研究科

(京都市西京区京都大学桂C-クラスター、
TEL075-383-3226、FAX075-383-3227)

*****京都府政策企画部企画総務課

*****正員、兵庫県阪神南県民局西宮土木事務所

*****正員、(社)システム科学研究所

標・ビジョンを掲げて推進する枠組みを構築することが重要であり、より効果的に推進するための法制度や仕組み、そして財源を確保することが重要であるといった主張もある²⁾。

筆者らは、都市と交通に係る分野において、それぞれが産・行政・学において様々な取り組みを行ってきた背景を踏まえ、幅広いまちづくりと交通の分野の専門家などが連携して日常のかつ持続的なしくみと体制を構築し、実務に直結する活動を展開していくことを最優先に、人材育成のための取り組みの第一歩として、“塾”を始めることとした¹⁾。

(2) 再生塾の取り組み概要

これまでに再生塾として取り組んだ事業を列挙すると、表-1に示すとおりである。

再生塾では、地域の交通問題を主導して計画策定や事業を推進してきた行政団体の担当者やプロジェクトを推進する専門家を主な対象として、総合交通政策を推進するために有用な理論的・実践的情報を共有するとともに、参加者相互の意見交換を通して「ビジョン」と「夢」の共有を行い、関係各方面で取り組む総合交通政策への支援に資することを目的として、まずはできることとして、基本的に実費を参加者に負担いただく研修会・セミナーなどを開催することとした。

最初は、平成19年度に基礎コースの研修会を開催した。内容は正司ら¹⁾に詳述しているが、参加者は熱心に取り組む、大きな手ごたえを感じるとともに多くの塾の取り組みに対する意見も頂戴した。

平成20年度には、基礎コース研修会の成果を踏まえて、ワンデーセミナー：基礎編と研修会：アドバンスドコースを開催した。また、これらの塾の取り組みをベースとして、近畿運輸局が主催する3回のセミナーへの支援を行い、各回とも200人を超える参加をみた。

さらに、塾の取り組みを定着、より発展させていくために、平成21年2月にはNPO法人の認証を取得した。

以下では、平成20年度に開催したワンデーセミナー：基礎編と研修会：アドバンスドコースの概要を紹介し、その成果と問題点などを検証・評価し、今後の取り組みのあり方について考察する。

3. 取り組みの内容と評価

(1) ワンデーセミナー：基礎編の取り組み

ワンデーセミナー：基礎編は、初めて交通政策を担当される方、あらためて基礎的な知識を勉強したい方などを対象として、総合的な交通政策を進めるための基礎知識をわかりやすく講義するといった趣旨で開催したものである。前年度の研修会：基礎コース参加者からの「基礎知識のないメンバーに、気軽に参加して質問がしやすいセミナーがあるとありがたい。」といった声に応えたいわば“入門編”的なセミナーとした。

参加者の内訳を表-2に、プログラムを表-3に示す。

表-2 ワンデーセミナー：基礎編参加者

分類	申込者数	構成比
行政団体	17	34.7%
大学/学生	9	18.4%
交通事業者	7	14.3%
コンサルタント等	15	30.6%
その他	1	2.0%
総計	49	100.0%

表-3 ワンデーセミナー：基礎編プログラム

時間帯	内容
10:00～10:45	あいさつーまちづくりと交通政策
10:45～12:15	参加者自己紹介&問題意識発言
12:15～13:00	昼休憩
13:00～13:45	公共交通再生へのアプローチ
13:45～14:30	公共交通の経営
14:30～14:40	休憩
14:40～16:00	意見交換

表-1 これまでの「再生塾」の取り組み

事業	時期	参加者	概要
研修会：基礎コース	平成19年8月～平成20年2月(6回の講座)	地方自治体、交通事業者、コンサルタント、学生(計27名)	“まち”と“交通”の考え方、まちづくりと交通政策、交通政策の進め方、経営論、基礎技術などの基礎講座。
ワンデーセミナー基礎編	平成20年8月9日(土), 10:00-16:00	地方自治体、交通事業者、コンサルタント、学生(計49名)	まちづくりと交通政策、公共交通再生へのアプローチ、公共交通の経営などの基礎講座とディスカッション。
研修会：アドバンスドコース	平成20年9月～平成21年1月(研修会5回と小単位でのディスカッション、及び報告会)	地方自治体、交通事業者、コンサルタント、学生(計17名)	実際のフィールドでのケース・スタディを通して、講師群と意見交換をしながらの実践的な研修。

注)別途上記セミナーをもとに、近畿地方運輸局主催のワンデーセミナーの開催(3回)を支援。



写真-1 ワンデーセミナー：基礎編

有料であったにもかかわらず多くの参加をみて、充実した意見交換ができ、参加者からは好評であった。

(2) 研修会：アドバンスドコースの取り組み

「アドバンスドコース」は、「基礎編」程度の基本的な考え方や基礎的な交通技術を習得した方、もしくは数年程度の実務経験を持っている方を対象として、実際のフィールドでのケーススタディを通して、実践的な研修を行ったものである。

前年度の研修会：基礎コース参加者からの「実際のフィールドを対象としてシミュレーションをしたり、具体的に取り組みに参加して進めていくといった実践的な塾を期待する。」といった声に応えたいわば“実践的”研修として位置付けられ、総合的な交通政策の推進に向けたノウハウや技術の獲得、そして何よりも参加者の交流を通じたビジョンの共有をしていただきたいと考えた。

a). 研修内容

少人数のグループで、実際のフィールドにおけるケースを取り上げ、そこにおける交通政策課題に取り組んでいただき、担当する講師群との意見交換をしながら実践的な『提言』を取りまとめた。ここでは、グループでの学習を基本とし、参加者相互の情報や意見交換と、講師群との対話や議論を通して、自ら学習し、プロセスを通じて人的ネットワークを築いていただこうと考えた。

研修内容は、表-4に示すとおりであり、研修会、現地視察とともに、グループ毎のワーキングやメールでの意見交換を行い、その成果をとりまとめてフィールド提供者にも参加していただいて報告した。

なお、この成果は、近畿運輸局主催の公共交通再生に関するセミナーでも紹介をすることとなった。

b). フィールドケースとラーニング・ファシリテータ

対象とするフィールドケースは表-5に示す3ケースであり、参加者には、原則として希望されたケースに取り組んでいただいた。各フィールドの関係機関には、情報提供や現地視察などにご協力をいただいた。

また、各グループには、ラーニング・ファシリテータを複数名配置し、学習の焦点化、洞察を促す質問、グ

表-4 研修のスケジュールと内容

研修会	日時	内容
第1回	平成20年10月4日(土), 10:00~17:00	オリエンテーション、グルーピング、研修計画、各コースの政策課題の共有等
第2回	平成20年10月~11月(各コース別)	現地調査、関係機関ヒアリング等
第3回	平成20年11月29日(土), 10:00~17:00	各コース別現状と問題意識、課題の共有と政策の方向性に係る議論等
第4回	平成20年12月20日(土), 10:00~17:00	中間報告と意見交換、提言に向けた取り組みに係る議論等
第5回	平成21年1月24日(土), 10:00~17:00	とりまとめ、提言と意見交換
その他	平成21年1月28日(水)	近畿運輸局主催セミナーで報告

表-5 アドバンスドコースのフィールド設定

対象	フィールド
大都市内のコミュニティ・バス再編計画	大阪市交通局
近郊自治体における総合的な交通政策	京都府京田辺市
中小鉄道の活性化計画	京福電気鉄道嵐山線



写真-2 アドバンスドコースでのディスカッション風景

ループの雰囲気づくりなどを行った。

c). 参加者

参加者は、これまでの再生塾への参加者への案内とともに、各種メーリングリストで募ったところ、17人が参加することとなった。内訳は、コンサルタント等：8人、行政団体等：6人、交通事業者：2人、学生：1人である。

毎月土曜日の研修会だけでなく、現地視察、研修会の間でのワーキングやメールなどでのディスカッションに参加するといった相当の時間を割くとともに、高額に参加費を負担するコースであるにもかかわらず、多くの参加をいただいて感謝している。

(3) 取り組みの評価

まず、ワンデーセミナー：基礎編及び再生塾の取り組みをベースとした近畿運輸局主催のセミナーからは、多くの参加者を得たうえで、非常に好評と賛同の声をいた

だった。たとえば、「よい刺激を受けた。勉強になった。」「各論の講義があれば参加したい。」といった感想が大半であったことから、有意義なセミナーであったと考えられる。さらに、本塾の成果をベースに開催した近畿運輸局主催のセミナーの開催に際しても、地方公共団体への案内とメールリストへの案内配信だけで、3回の開催とも200名を越える参加者を見たことから、問題意識を持った多くの人材が存在することを改めて認識した。

アドバンスドコースの開催は、さらに有意義で刺激的であったと考えている。塾終了後にアンケート調査に協力していただいた結果からは、全員が「研修内容は、非常に良かった。」と回答され、大半の方が「来年もひきつづき再生塾に参加したい」、「塾生との交流会を開催するのとしたら、参加したい。」と表明してくださった。参加者の代表的な意見を下記に示す。

また、塾の成果を近畿運輸局主催セミナーで発表したり、終了後に提供していただいたフィールドの機関と意見交換したり、そして本土木計画学研究発表会でも全チームが報告をしていただくところとなっており、塾が終了した後もメンバー相互が連携して様々な取り組みをしていただいていることに対して、筆者らは心から敬意を表するものである。

さらに、フィールドケースの対象とした団体には、検討成果を報告している。この結果、成果の一部は有用な提案として評価され、実行されるものがあることも大きな効果であろう。

(参考：アドバンスドコース参加者の感想例)

- ・行政、民間と立場は違えど、一つのテーマを検討する中で、多くの気づきや自分と違う視点、発想を得ることが出来てたいへんうれしいです。今後も、引き続き活動出来ればと思います。
- ・プレゼンまでのプロセス（組み立て方、チーム運営、PP利用、等々）全てにおいてプラスとなることばかりで大変ありがたい塾でした。これからの自分の仕事に生かして生きたいです。
- ・やはり、いろんな方との議論が楽しく、勉強させて頂きました。ぜひ夏を中心にお願ひ致します。
- ・現地調査の重要性を知った。引き続き勉強してみたいという思いが強いです。

4. 課題と今後の展開

(1) 課題

本稿では、持続可能なまちと交通をめざした取り組みを進めていくために最も重要な課題である実務者の“人材の育成”に着目して、再生塾の取り組みを報告した。

今後は、ここで得られた成果と課題を踏まえて、よ

り有用な“塾”の取り組みを進めると共に、まちと交通に係る問題の解決や各種施策を総合的に推進するための支援を効果的なものとするために、次のような取り組みについても具体化していく必要があると考えている。

1. 「再生塾」の取り組みの発展的継続
2. 関連分野の専門家ネットワークづくり
3. 地域や各界のリーダーのための研修
4. 各地域で進めるまちづくりや交通計画と施策実施への支援、提言
5. 市民や学校、各界の教育・啓発活動への支援
6. 関連する研究成果や技術開発とその情報提供、普及

(2) 今後の展開

再生塾は、取り組みを定着して発展させていくためにNPO法人の認証を取得した。今後は、NPO法人再生塾として、様々な取り組みを展開したいと考えている。

平成21年度は、次のような取り組みを予定している。

- ・ 「再生塾-持続可能なまちと交通をめざして」基礎コース：平成21年8月
- ・ 「再生塾-持続可能なまちと交通をめざして」アドバンスドコース：平成21年9月～平成22年1月
- ・ 情報発信・提供事業：ホームページの開設
- ・ アドバイス事業
- ・ 交流事業 など

6. 謝辞

本稿は、筆者らの議論と活動だけによる成果ではない。塾に参加していただいた皆様との議論が非常に有用であったし、とくにアドバンスドコースへの参加者との取り組みと議論は有意義で刺激的であった。ここに記して心から感謝の意を表する。また、アドバンスドコースでは、森栗茂一大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授、(社)システム科学研究所の塩土圭介氏にファシリテータとしてご協力いただいた。さらに、アドバンスドコースは、フィールドを提供していただかなければ成立しなかった。提供していただいた関係機関に深く感謝する。さらに、本塾の成果を踏まえてセミナーを主催していただいた国土交通省近畿運輸局にも、謝意を表したい。

参考文献

- 1) 正司他：「総合交通政策を推進していくための一つのアプローチ - 「再生塾-持続可能なまちと交通を目指して」を通じた人材育成の試み-」第37回土木計画学研究発表会講演集(春大会)，2008。
- 2) 土井勉：「まちづくりと公共交通政策」都市問題研究，第59巻第12号，pp.38-52,2007

